

## 全校集会 学校長の話（2026年3月17日）

- おはようございます。先週の金曜日、3年生の卒業式が行われました。式に参列してくれた生徒会役員の皆さん、吹奏楽部の皆さん、そして準備や片付けに協力してくれた皆さん、ありがとうございました。皆さんのおかげで、あたたかくて、とてもいい卒業式になりました。
- さて、どうしても3年生が卒業するというビッグイベントがあるので、「卒業まであと何日」という話が多くなりがちでした。でも、実は皆さんも、修了式まで今日を入れてあと4日です。あっという間です。
- ここで、前回の全校集会で話した内容を少し振り返ります。「不易と流行」という話をしました。覚えていますか。松尾芭蕉の言葉で、「不易」は時代が変わっても変わらない大事なもの、「流行」は時代に合わせて変えていくもの。どちらか片方ではなく、両方を大切にするという話でした。  
きょうは、その「流行」の部分について、もう少し話をします。
- ICT や AI の発展は、本当にめざましい。皆さんも実感していると思います。そして、こうした技術の進歩によって、今ある仕事の中には、10年後にはなくなるかもしれないと言われているものがあります。たとえば、一般事務員、銀行の窓口係、スーパーの店員、ホテルの客室係、タクシーやバスの運転手。これらの仕事は、AI やロボットが代わりにできるようになると言われています。  
「え、そんなに？」と思うかもしれません。でも、仕事なくなるということ自体は、実は昔からずっと起きてきたことです。
- たとえば、「ノッカーアッパー」という職業を知っていますか。イギリスで、20世紀の初めごろまであった仕事です。何をするかというと、朝、長い棒で窓をコンコン叩いて、人々を起こして回る。目覚まし時計がまだ高くて手に入らなかった時代には、遅刻しないために絶対に必要な仕事でした。でも、安い目覚まし時計が普及すると、この仕事はなくなりました。
- もっと身近な例があります。電話の番号案内です。知っている人、少ないかもしれませんが。104 にダイヤルすると、オペレーターが名前と住所から電話番号を調べて教えてくれるサービスです。1890年、明治23年から続いてきたサービスで、130年以上の歴史があります。それが、スマホやインターネットの普及で利用者が激減し、今月の3月31日をもって、サービスが終了します。130年以上続いた仕事が、この3月で終わる。まさに「流行」の部分です。
- しかし、なくなる仕事がある一方で、新しく生まれる仕事もたくさんあります。ノッカーアッパーがなくなった代わりに、目覚まし時計を作る仕事が生まれた。104 がなくなっても、検索サービスを開発する人、AI を設計する人、新しい仕事がどんどん生まれています。
- 大事なのは、変化を怖がることではなく、変化の中でも変わらないもの、つまり「不易」の部分を持っているかどうかです。人と直接向き合うこと。自分の頭で考えること。相手を思いやること。これは、どんなに技術が進んでも、AI には代わりがきかない。
- 皆さんは4月から、1年生は2年生に、2年生は3年生になります。新しい学年、新しいクラスで、また新しい日々が始まります。その新しい場所で、変化を楽しみながら、変わらない大事なものを持ち続けてほしいと思っています。
- 修了式まであと4日。短いですが、1日1日を丁寧に過ごしてください。以上です。